

## フィリピン大統領

### ベニグノ・アキノ 3 世閣下のスピーチ

#### 「APEC 女性と経済フォーラム 2015：女性と経済に関する官民対話」にて

[2015 年 9 月 17 日、パサイ市、フィリピン国際コンベンション・センター]

女性の強さについて、私は十分に承知しています。我が国の歴史書には、女性たちの不屈の精神、回復力、母国に対する愛情についてのストーリーが数え切れないほど書かれています。例えばガブリエラ・シラン。わが国で最も名高いヒーローのひとりで、夫が暗殺された後、入植者に対する反乱を主導しました。次に、タンダン・ソラ。スペイン占拠に対してさらなる革命が起きた時期に、負傷兵のために避難所を提供しました。最近では、もっとも個人的な例を申しますと私の母です。悪しき独裁者に対して果敢に反対の態度を示し我が国の民主主義再生を導いた母の姿を、私は直に見ておりました。

これらのフィリピン女性が見せる意志の力は別段珍しいものではなく、日常において見られる特性です。例えば、1984 年にさかのぼります。私の母が独裁者に対する反対運動を主導していた頃、セブで常に我々の集会に参加していた女性がいました。独裁政権と戦う彼女の情熱は相当なもので、人々が独裁者の辞任を要求する中、彼女は文字どおり「クビにしろ」と叫んでいました。彼女を際立たせたもう 1 つの出来事があります。彼女は常にバスケットを持ち、その中に清潔な下着、歯ブラシ、インスタントコーヒー、その他の必需品を入れていました。私は不思議に思い、政治集会に何故そんなものを持ってきたのかと彼女に尋ねました。彼女はこう答えました。「いつ逮捕されてもいいように準備しています」（笑い）。この女性の熱心さは、自分の信念への確信を表す最も明確な例の 1 つとして、私の記憶に焼き付いています。

もちろん現代においても、人々の生活向上に貢献する優れた女性リーダーには事欠きません。思い浮かぶ女性の 1 人はマリフェ・ザモラ（拍手）。著名な IT-BPM 会社の経営陣の重要メンバーです。私が任期を開始した頃に彼女は、政府に加わり改革への取組を支援したいと申し出ました。私は彼女に、自分のセクターに留まり労働力を拡大することで経済を支援する方が、もっと大きな貢献ができるはずだと答えました。当時彼女の会社は約 2 万人の従業員を抱えていましたが、私の任期終了までに 3 万人に増加させることが私の要望でした。あれから 5 年を経た現在、同社は 3 万人どころか 6 万人のフィリピン国民に仕事を提供しています（拍手）。実際、最近聞いたところによると、仕事を提供するうえで唯一の制約要因は、大都市マニラの大通りである EDSA で利用可能

なオフィスの空きスペース不足だそうです。彼女の会社の実績にとっても感銘を受けたので、政府の仕事をしたいという彼女の申し出は断ることにしました。

大勢の女性が、実に多くの場合、男性よりも意志が強くて有能であるという事実を前に、一般のフィリピン男性がフィリピン女性の権威に決して疑問を持たないのは、当然といえば当然ですよ？（笑い）これは、我々の社会に本来根付いている特徴だと思います。堅実な予算管理、総じて家族の繁栄を重視する点など、多くの側面で女性は優れていることが分かります。すべてのフィリピン女性は、ロールモデルやヒーローとなる女性の模範的な姿を心に秘めていると私は思います。我々が本日ここにいる理由はまさにこれです。すなわち、すべての女性の才能と能力を活用すれば、すぐにでも包摂的な進歩をもたらすことが可能であるという、我々共通の信念を表現するためです。

本政権は、この信念を実行に移した素晴らしい例です。私の任期中、確かな道徳的姿勢を持つ多くの女性が政府の要職に指名されました。さまざまな分野で切望される改革を実現できる女性たちです。例えば、行政監察官のコンチータ・カルピオ・モラレス、司法大臣のライラ・デリマ、社会福祉開発大臣のディンキー・ソリマン、保健大臣のジャネット・ガリン、フィリピン経済区庁のリリア・デリマ長官、内国歳入局のキム・エナレス長官、監査委員会元委員長のグレース・プリドタンなど、ほかにも多数の女性がいます。この5年間、これらの女性たちは精力的に必要な改革を推し進め、たとえ大きな権力や影響力、既得権を持つ者たちに直面しても、引き下がることはありませんでした。彼女たちは、本政権による改革を実現するための大きな柱です。そして、性別によってではなく、むしろ、誠実さ、仕事上の倫理、奉仕する意欲によって判断されるような公務に就きたいと願う若者への良いお手本となります。

フィリピン社会への女性の貢献は、言うまでもなく公的部門を超えて広がっており、ここ数年間における目覚ましい経済成長に拍車をかけました。貿易産業省によると、全登録商標のうち54%は女性が所有しているそうです。また、アジア経営大学院が実施した調査では、企業のマネージャーやオーナーの約63%が女性であることが明らかになりました。彼女たちが関与する主要セクターの1つは、雇用総数の63.7%を占める零細中小企業です。こうした統計を見るにつけ、こう思うのは私だけじゃないはずです。おそらく10年後には、フィリピンにおけるジェンダー平等は、もはや女性解放ではなく男性解放の問題になるでしょう（拍手）。実際、既婚者の同胞の何人かは、10年後に起こるどころか今まさに起きている現実だと言っています（笑い）。

我々の目標は包摂的経済の構築です。包摂的な成長を目指すうえで、女性の方がパートナーとして相応しいことが明確な場合、政府は女性起業家にもっと機会を提供するべきです。例えば、フィリピンの技術教育開発局とコカ・コーラ社とのパートナーシップで実現した TESDA-STAR プログラムがあります。サリサリ・ストアにおけるトレーニングと資源へのアクセスに関するプログラムです。サリサリ・ストアとは、フィリピンにある非常に小規模な近所の小売店のことです。この取り組みを通して我々は、簿記、在庫管理、会計、その他の規律についてサリサリ・ストアの女性オーナーを訓練し、特に、非公式な事業になりがちな手法を専門化したり形式化したりするよう支援しています。さらに我々は、利益の効用を最大化する方法も教えています。このプログラムは、2011年12月から今年の6月までに33,315人の卒業生を送り出しており、最終的には約20万人のフィリピン女性を訓練することを目標としています。

すでに多くの成功談を耳にしています。例えば、以前は1日の収入がわずか800ペソだったオーナーがいましたが、プログラム終了後、彼女の1日の収入は4,000ペソに増えたのです。実際この金額は、すべての必要控除前の私の給料と同じくらいです。それに、この収入を得るために彼女が受けるストレスは、私よりもかなり少ないと思われます（笑い）。

また、議会は、女性の機会の裾野を広げるいくつかの法律を可決しました。最も注目される点として、2011年に我々は、女性の夜間就労を禁じる、時代遅れの労働法の規定を廃止しました。

驚くには値しないことですが、世界経済フォーラムによると、フィリピンはジェンダー格差の縮小に関して、アジアで唯一トップ10入りしている国だそうです（拍手）。しかし誤解しないでください。この指標で成果をあげたからといって、さらなる進歩の追求をやめるわけではありません。女性は依然として、多くの差し迫った課題に直面しており、ジェンダー平等の問題には継続的な省察とそれに伴う行動が求められます。だからこそ、仕事には常に、真に包摂的な社会を築くために必要とされるきめ細かな人々との交流、共感、思いやり、尊敬の念を持ってアプローチしなければなりません。ご安心ください。フィリピンは、女性の機会を拡大するうえで皆さんのパートナーであり続けます。本日の皆さんの話し合いにより、ひとりも取り残されることのない世界の構築へと、我々がさらに一歩近づけることを望んでいます。

ご清聴ありがとうございます。良い一日をお過ごしください。